

# 〇〇スーパーに来るお客さんに、お店の人の工夫が伝わるレポートを書こう！

発行  
令和4年8月29日  
中部教育事務所



いの町立伊野南小学校

教材 第3学年 「調べて書こう、わたしのレポート」(東京書籍 3上)

## 単元計画 (全9時間)

時間	学習内容
お店の人の工夫が伝わるレポートを書こう！	【社会科の時間】「店ではたらく人の仕事」の単元で、地域のスーパーマーケットを見学し、お店、お客さんのことを考えた様々な工夫を見つける。単元の終わりに、それぞれが見つけた工夫についてまとめたレポートを書くという見直しをもつ。 ・お客さんが商品を買いやすいようにする工夫 ・安全で新鮮なものを提供するための工夫 等
	単元の見直しを立てる。 1 教科書の例文を読み、伝わりやすいレポートの書き方の工夫について話し合う。 読み手(スーパーに来るお客さん)にお店の工夫を伝えることを意識して一番伝えたいことを決める。
	【社会科の時間】伝えたい情報を付箋に書きだす。 2 集めた情報を、共通点や相違点に着目しながら、伝えたいことが明確になるように整理する。
	3 教科書を参考に、相手や目的を意識して、どのような話の構成で述べるとよいかを考える。 書く事柄や順序を確かめ、伝わりやすいレポートの組み立て(項目の置き方)について話し合う。
	4 伝えたいことが伝わるよう、「3 調べて分かったこと」に書く事柄の順序を考える。【本時】
	5 友達と話し合ったことやメモを参考に、レポートにまとめる。
	6 教科書を参考に、事実と感想を区別することや、伝聞の言い方を用いるとよいことを理解し、使って書く。
	7
	8 レポートを読み合い、よい点やアドバイスを伝える。 9 単元をふり返って、学習を通して身に付けたことを確かめ合う。

### 本時で達成したい目標

◇伝えたいことが伝わるレポートになるように、いくつかの構成を比較したり、友達と話し合ったりして、自分の調べた事柄を書く順序を考えることができる。

### 本単元で身に付けさせたい資質・能力 B「書くこと」イ 構成の検討

◇書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。

### 本時の展開

〇〇スーパーに来るお客さんに、〇〇スーパーのお店の人の工夫が伝わるレポートにするために、「調べて分かったこと」に書く事柄の順序を考える。何を伝えたいのか、そのために「3 調べて分かったこと」に書こうとしている3つの事柄をどのような順序で書いていくのかを構成メモを見せながら、ペアで伝え合う。伝え合ったことをもとに、全体で共有した後、もう一度自分の構成メモを振り返り、考えを再構築する。

レポートの題名  
名前

1. 調べた理由
2. 調べ方
3. 調べて分かったこと  
(1)  
(2)  
(3)
4. 調べた感想
5. 調べるときに使った資料

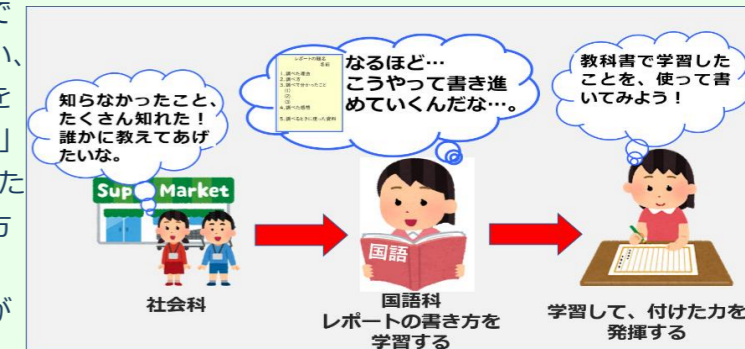
学習活動	指導上の留意点
1 本時の課題をつかむ。 伝わりやすいレポートにするには、どのようなじゅんじよで書いたらいいか考えよう。	・前時の学習で、教師の「3 調べて分かったこと」に書く順序にアドバイスしたことを想起させたり、本時の課題につながる、前時の児童の「振り返り」を紹介したりするなどして、学習の見直しをもたせる。
2 ペアで話し合う。 話し手：書く順序と、その順序にした理由を伝える。 聞き手：感想やアドバイスを伝える。	・話し合いのモデルや、話し合いの観点を示し、友だちの順序や理由のよさを見付けたり、助言したりできるようにする。
3 全体共有をした後、もう一度自分の構成メモを見直し、順序を考える。	・全体共有では、理由が明確な児童や、伝え合いで考えが変わった児童、内容が同じで順序が違う児童同士の構成を紹介する。 ・全体共有後、もう一度自分の順序を見直し、順序を変えた理由や、変えなかった理由を考えるよう伝える。
4 学習を振り返る。	・分かったことや、友達によさ、考えが変わったこと、次の学習で頑張りたいことなどの、振り返りの観点を伝える。

## 授業づくりのポイント

### ① 他教科等との関連(社会科と連携させて国語科で付けた力を生かす)

小学校国語科の目標は、「言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し、適切に表現する資質・能力を育てる」ことである。国語科は、子どもたちの国語力の育成を担っているが、国語科だけの学習で、確実に資質・能力を定着させることは難しい。国語科で付けた力を他教科等や実生活で発揮してこそ、国語の力が生きて働くものとなる。

今回の提案は、社会科との関連づけがなされていた。社会科の学習で実際に見学を行うことで、子どもたちは、教科書の写真や活字ではない、実物や本物に触れたり、現地の方々から話を聞いたりして理解と関心を高める。そこで得られた情報に対して、「お家の人に教えてあげたい!」「誰かに伝えたい!」という気持ちが増してくる。「知らせたい! 伝えたい! けれど、どうやって伝えよう…。国語の教科書にレポートの書き方が載っているぞ…。使えそうだな。」という思いが原動力となり、言語活動を遂行するためのエネルギーとして、国語科で学ぶことに必要感が出てくる。

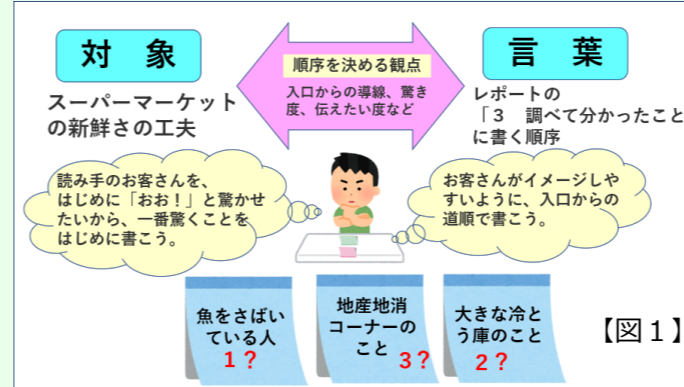


### ② 言葉による見方・考え方が働いたかどうかを検証する(TC記録から、子どもの振り返りから)

資質・能力の育成の鍵となるのが、児童が「言葉による見方・考え方を働かせる」ことである。図1は、本時における見方・考え方を働かせているイメージ図である。スーパーマーケットの新鮮な商品を届けるための工夫をレポートに書くために、一人一人の児童が、言葉の意味や働き、使い方等、言葉への自覚を高めているかどうかをどのように見取ることができるのか。

伊野南小学校では、「教師と児童の発言記録(TC)」をとり、事後協議ではそれをもとに、「本時において『見方・考え方を働かせる子どもの姿』は見られたか」について協議をおこなった。参加者は、「ドキドキしてお客さんが読んでくれるように、一番伝えたいことを最後にする順番で…と発言している」や、「教師の、『〇〇君は、どんな順番で置いている?』という投げかけで子どもたちが言葉に着目し始めた。」などと、教師や児童の言葉をもとに、検証することができた。

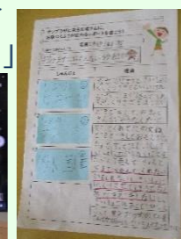
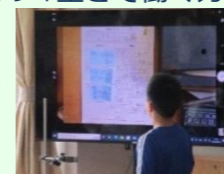
また、児童の発言のみでは、全員の思考は見取れない。そこで、授業の終末に育成したい資質・能力に即した観点を示し、振り返りを書かせることで、児童一人一人の思考(今回で言うと、どんな観点を「3 調べて分かったこと」に書く順序を決めたのか)や、児童に資質・能力が身に付くまでの道のりを確認できるようにした。振り返りを活用することで、次時に向けての授業改善や一人一人への働きかけを考えることが可能になる。



～児童の振り返り～  
(Aさんが、一番伝えたいことを最後にしている考えに対して) わたしもAさんのように、さい後まで読んでほしい気持ちはあります。でも、やっぱりいそがしいお客さん(読み手)のために、一番さいしょに、一番伝えたいことをおきます。

### ③ 可視化し、共有を図る(ICTの活用・構成メモ)

「書くこと」領域の学習過程に、「共有」がある。文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けることであるが、中学年では、「書こうとしたことが明確になっているか」などの観点をもつ。書き終えた文章の共有に加えて、今回の「構成の検討」の過程でも、構成メモを共有する。今までややもすると、感覚のみで選んでいたかもしれない順序が、言葉による見方・考え方を働かせながら、書く順番の意図を伝え合うことで、今後のレポートを書く際の「生きて働く力」となる。共有する際に、教材提示装置で構成メモを映し出すことは、思考が可視化され、共有がしやすくなるという面で効果的である。



### ④ 講師 大塚健太郎 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官

～教材研究会の講話の中より、一部抜粋～

#### ○国語科の目標について

国語は、言葉の意味に立ち止まらせる教科。普段何気なく使っている言葉、やりとりに、言語活動を通すことで、ふと立ち止まらせる場面をつくる。児童が言葉に着目し、言葉に対して自覚的になるように、言葉に対するアンテナを丁寧に立ててあげることが大切。

#### ○他教科との関連について

カリキュラム・マネジメントとして、国語科の学習と他教科等と横のつながりをつくるのは、とても大切。その際は、両方の学習目標を達成すべきである。また、子どもが本気になる時は、この学習が生きて働く先があることが分かる時。言語活動に必要感をもたせることが必要。